



岡山理科大学大学院 理学研究科臨床生命科学専攻

中村 元直

私が岡山理科大学に教授として着任したのは2014年4月でした。その頃は無名の地方大学でしたが、昨年来の「加計学園」や「獣医学部新設」問題で、図らずも全国的な知名度を得てしまいました。あまり良い印象を持たれていない方も少なからずいらっしゃると思いますが、このコラムを読んで頂き、その印象を少しでも払拭していただければ幸いです。

岡山理科大学はJR岡山駅から車で10分ほど北に向かった小高い山の中腹にあり、新幹線の山側の車窓からも山を切り開いて建てた教育・研究棟群を容易に見つけることができます。岡山は「晴れの国」と呼ばれるように、温暖で、地震、台風、大雨や大雪などといった自然災害も少なく、1年中過ごしやすい土地です。加計学園を経営母体とする岡山理科大学は今から54年前、現理事長の父、加計勉氏が理学部を開設したのが始まりです。現在、岡山理科大学では学部の新設が続いており、これまでの理学部、工学部、総合情報学部、生物地球学部に加え、平成28年度には教育学部、その翌年には経営学部が誕生しました。今年4月には国内で約半世紀ぶりとなる獣医学部も開設さ

れ、全体では7学部24学科の大学となり、併設される大学院も合わせると、学生総数は6,000名以上に上ります。岡山は山陰や四国の玄関口でもあることから、こうした方面からの学生も多く入学してきます。岡山理科大学は、教育に非常に力を注ぎ、学内では教育の質向上に向けた議論や勉強会が度々開かれます。本大学では、ほとんどの学科で教員養成教育も行っています。有為な教育者の養成が社会への貢献につながるという創立者の理念に基づき、高い専門性に裏づけられた優秀な教師を多数養成し、これまでに約5万人の卒業生のうち、5,000人近い卒業生が、主に中等教育の理数系教員として全国で活躍しています。私が籍を置く理学部臨床生命科学科では臨床検査技師の養成も行い、国家資格取得後、毎年数十名の臨床検査技師を社会に送り出しております。また、“理科大学”らしく研究にも重点を置き、学内プロジェクトも幾つも進行中です。最近では、モンゴルにおける世界最大級の恐竜足跡化石の発見が注目を集めました。海水を使わずに海水魚の養殖を可能とする第三の水、「好適環境水」の開発や、新たなワイン醸造技術の開発、ワインの味や香りに重要な高分子化合物



写真1 今年度の研究室メンバーの集合写真

の解析等を目的としたワインプロジェクトなど、魅力的なテーマも推進中です。東京大学医学部から籍を移した当初、本学を「地味な地方大学」と予想していた私を深く恥じたほどです。新設される獣医学部も必ずや社会に貢献できる有能な獣医師を多く輩出する教育機関と認めて頂けると確信しております。

後半は少し私自身のことについても書かせて頂きます。私は広島大学大学院を修了後、JT医薬総合研究所、東京大学医学部（国内派遣留学）、Tularik研究所（米国派遣留学）、東京大学医学部（准教授）と幾つかの研究組織を渡り歩いて参りましたが、研究内容はそのほとんどがGタンパク質共役型受容体（GPCR）に関するものでした。GPCRの魅力に取り憑かれたきっかけは、東京大学医学部への国内派遣留学時に清水孝雄先生（現国立国際医療研究センター長）のもとでの血小板活性化因子受容体の研究をさせて頂いたことでした。今後もしタイヤするまでGPCRを材料とした研究は続けて参ります。今思い返すと私は何一つ自分の意志で進むべき道を決めていないような気がします。流れに身を任せた全く不器用な生き方です。苦手なことはとの質問に、“懇親会”と答えてしまうほどの会話下手な人間でもあります。ただ、これまでの人生その時々、

良き人々との幸運な出会いから現在に辿り着きました。私は人との出会いに本当に恵まれた人間だと常々思っております。今も多くの方々に助けて頂きながら研究を進めることができいております。お世話になった方々に本当に心より御礼申し上げたいと思います。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。私の研究は、「GPCR研究の新展開」をキーワードに、GPCRの一生を知るべく、転写調節制御、翻訳後修飾、細胞内輸送、活性制御など、好奇心の向くままに自由な研究をさせて頂いております。研究室には毎年6～8名程度の卒論生が配属され、約半数が大学院に進学します（写真1）。学生は皆好奇心旺盛で、根性があり、且つ、素直です。これは中四国地方の学生の資質なのでしょうか。嬉しい限りです。50歳を過ぎた今でもベンチに向かって学生と一緒に実験しています。少々老眼が加速し、エタ沈の沈殿物が目視し辛くなったことが寂しい今日この頃です。最近ではロイコトリエンB4（LTB4）受容体（BLT1）の活性化制御に関して興味深い成果を上げることができました。こうした研究に興味をお持ちの若い研究者がいらっしゃいましたら是非、一緒に研究しませんか。他大学からの大学院入学也大歓迎です。お待ちしております。